

宝塚にしたに里山ラボ

里山と都市をつなぐ活動をしていたら

たくさんの人が西谷を好きになってくれた



宝塚市内から車で北へ約 30 分。昔ながらの原風景がたくさん残る地域に、1 回の親子イベントで 150 人もの人を集めるグループがある。最近では、参加希望者が常に定員以上になってしまうため、参加者は抽選で決めることもあるそうだ。そのグループとは、宝塚市西谷で活動する『宝塚にしたに里山ラボ』だ。主催者のひとり、龍見奈津子さんに、活動を始めた動機や経緯、現在の活動について伺った。

西谷を何とかしたい！



西谷出身の龍見さんだが、東京の大学に進み海外生活も経験したあと、実家の事業を手伝うことになり戻ってきたリターン移住者だ。久しぶりに帰ってきた地元で目にしたのは、高齢化が進み人口が減少し、すっかり活気のなくなった西谷だった。

これは何とかしなければ、という気持ちで参加した「宝塚 NPO センター」主催のソーシャルビジネスを学ぶ講座で、「一緒に西谷を何とかする活動をしよう」と言ってくれる 3 人の仲間に出会う。

「西谷の良さを知ってもらうために、西谷に人を呼ばなくてはならない」
西谷へ人を呼び込む施策の模索が始まった。

里山にしかないものをまちの親子に提供しよう



「豊かな自然や、原風景、伝統文化など、里山にしか提供できないものがあるはずだと思います」

龍見さんたち4人の創立メンバーは、「気軽に自然を体験したい」というニーズのある子育て世代に、里山の良さを伝える活動を中心に据えた『宝塚にしたに里山ラボ』を2017年4月にスタートした。

活動の内容は大きく3つ。

1. 西谷に関する情報の発信
2. イベントの開催
3. 冊子の作成と配布

冒頭で紹介した特に人気のイベントとは、毎年、新米の季節に開催する「ごはんフェス」だ。今までの述べ参加人数は600人を超えている。あくまで親子で気軽に楽しんでもらいたいので、難しいことはしない。自然の中で遊んで、西谷の新米をみんなで楽しむという内容だ。ただ、去年は少しだけステップアップして飯ごう炊飯に挑戦してみた。



「里山の小さなおもてなし」は、味噌作りや餅つきなど、里山の伝統的な暮らしを、地元のシニアの皆さんに教えてもらう企画で、こちらも人気のイベントだ。

冊子はすでに4冊出している。一昨年は地元宝塚市内のカフェとコラボした『にしたにおでかけレシピノート』。「西谷の食材でおでかけに適した料理を作って、西谷に持って遊びにきてね」というコンセプトのレシピブックだ。龍見さんいわく、

「西谷ではいろいろな野菜を作っていますが、特産品は多くはありません。このようなレシピブックを作ることで付加価値をつけられればと思っています」



何か楽しいことが起こりそう、と予感させる西谷

目下の悩みは人手不足。150 人も集まるイベントの仕切りは4 人では回せない。しかし、ありがたいことに、奮闘する龍見さんたちを地元の人たちも応援してくれ、手伝ってくれる人も多いのだという。また、イベント参加者の中からも手伝いを申し出ってくれる人がいて、助けられているようだ。

運営は大変だが、活動を通して確実に西谷を知ってもらう機会は増えている実感がある。直接移住の手伝いをしたわけではないが、イベントで西谷を知って気に入り、移住してきた人もいるようだ。知ってもらい、地元の人と接点を持ってもらうことで、移住のハードルも下がると確信している。



2021 年は、観光庁の補助金で、夜の西谷を見てもらうイベントも開催した。美しい星空を見たり、焚き火を囲んだりするこのイベントも好評を博した。これによって、西谷に宿泊するツアーなども企画できるのではないかと、観光への可能性が広がった。

親子で里山を楽しんでみたい方は、ぜひ一度『宝塚にしたに里山ラボ』のイベントに参加されてはどうだろう。



キャプション

<220129_005>

『宝塚にしたに里山ラボ』主催の龍見奈津子さん

<DSC08005>

里山にしか提供できないものをまちの親子に伝えるイベントを考えた

<ごはんフェス 2018_3>

今までの述べ参加人数が 600 人を超える「ごはんフェス」の様子

<レシピノート 200220 最終_page-0001>

冊子『にしたにおでかけレシピノート』

<DSC03208>

森の中で絵本を読むイベント「森の図書館」

<220129_021>

いつもイベントを行っている「宝塚市立宝塚自然の家」を案内してもらった